

也X 305

宗敎一斑

澹泊道士輯
桑麓逸士叙

全

以文齋出版

№17675/22

宗教一斑正誤

一 數 行 數 誤 正 延 脫

叙 三 十 小

四 初 幸亦甚 幸甚亦

四 圖ノ下 日蓮寺 日蓮等

五 七 二兩

六 三 アラビヤ 西乃山

全 四 最 是

全 六 若 苦

八 五 バイレードピラト

九 三 西ニ

全 五 音チチ

全 六 ナ

全 十 耳

全 十三 瑞

全 十五 足

全 十二 問

十二 七 云

十四 二 離

十六 三 トノ上

全 十一 一邑

二十一 五 セモノ間

廿四 十二 物

廿八 十二 是ニ

卅六 十三 思

卅八 二 戸

全 二 俳

四十三 八 粉

四十四 三 臨修

四十五 四 王

四十八 七 得出ヲ生人得生ヲ世人

正

誤

參 考

宗教全系中主トシテ地位上

之ヲ判別スト雖西洋教中ソ

ノ教祖或ハ東洋中ニ起ルア

ツモ猶太ノ如キ其當時羅馬

ノ「ヘロデ」王ノ支配セシキ

ニシテ加フルニ從來西洋ニ

盛ニ弘布セシヲ以テ之ヲ西

洋教ト判スルナリ

○ビユーリタン宗ニユテリ

アン宗シツクス教ゼーン教

其他方今世界現布ノ教派ハ

凡ソ一千種モアルベクソレ

要スルニ皆本編ニ載スルト

コロク末派枝流ニ外ナラサ

ルヘシ

叙

海永一滴嘗之則覺鹹河流一掬飲之則止渴蓋一滴之么微
 能令識別全體之味一掬之少量能令滿足口腹之欲焉嗚呼
 其體雖干其用豈不亦大矣哉余今觀此冊子可謂法海之一
 滴教流之一掬矣世之不知法味教用者熟讀之果可認教海
 之波瀾辨法流之清濁乎書以示同好之君子云爾

明治二十一年十一月

桑麓逸士撰



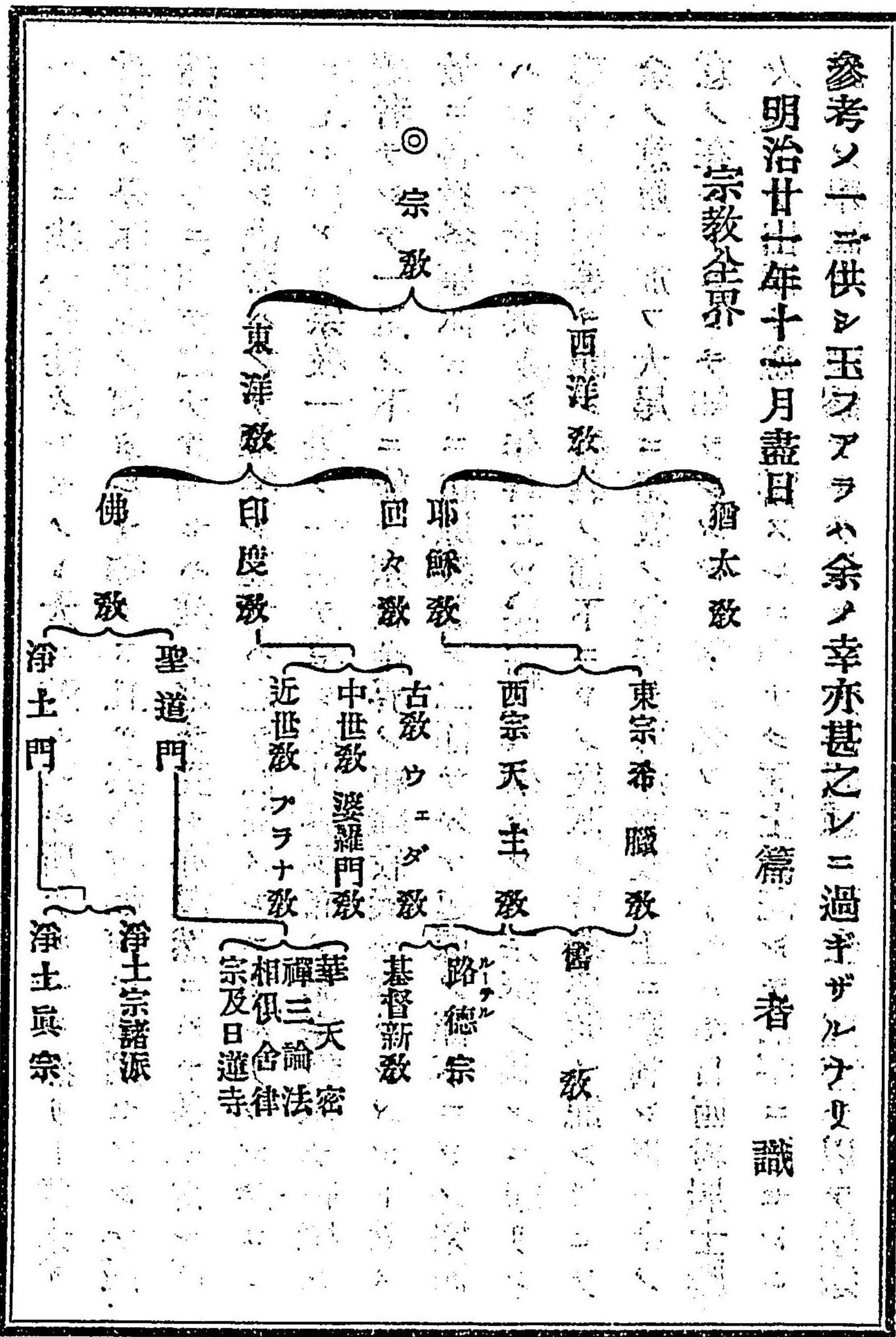
序言

近來内外人ノ交際年一年ヨリ盛ナルニ隨ヒ洋教徒ノ皇國ニ渡來スル
モノ日一日ヨリソノ數ヲ増シ教會ヲ設ケ學校ヲ立テ追テ内地雜居ノ
曉トモナラハ更ニ内地ニ進入シテ我教區ヲ蠶食セント欲スルヤ必セ
リ此時ニ當リ我が佛教者モ亦成ルベキ丈ケノ手段ヲ盡シソノ佛敵ヲ
排斥セント欲ル亦勢ノ國ヨリ然ル所ナルベシ而シテ外教ヲ排斥セン
ト欲スルモノ嚮々朝野ニ乏シカラズト雖概チ漫然タル妄破杜斥ニシ
テ眞ニ破邪顯正ノ實ヲ講スルモノ少シ甚キニ至リテハ徒ヲニ詈言忿
辭以テ彼ヲ壓倒センコトヲユレ勉メ彼ヲシテ自省悔悟スルノ暇ナカラ
シメ却テ彼レガ激烈ノ反動力ヲ喚起セシムルニ至ルモノアリ是レ余
ノ大ニ憂フヘキ所ニシテ亦此篇ノ由リテ起ル所以ナリ眞ニ彼レノ妄
見ヲ破リ彼ヲシテ速ニ正見ヲ開悟セシムルハ實ニ我が佛教ノ本旨ナ
リト雖未ダ邪ノ邪タル所以ヲ知ラス又眞ノ眞タル實ヲ講セス漫然彼

レハ邪ナリ我レハ眞ナリト云ハ、孰レカ其愚ヲ笑ザラシ彼教徒ノ我
ガ佛教ヲ破タルモ亦然リ或ハ口ニトキ或ハ書ニ筆ストイヘドモ概テ
妄浪杜撰ニシテ一モツノ當ヲ得ルモノアラザルナリ是レ全ク所對ノ
教意ヲ了セザルニ原由セザルハナキナリ彼耶穌教ノ如キハ一方ヨリ
之ヲ觀レハ敢テ恐ル、ニ足ラスト雖他方ヨリ之ヲ見ルトキハ又大ニ
恐ルベキ所アリ表面ヨリ之ヲ視レハ淺近鄙劣ノ教宗ニシテ實ニ取ル
ニ足ラザルモノ、如シト雖裏面ヨリ之ヲ見ルトキハ又稍々深遠ナル
所アリ右ヨリ之ヲ視レハ全ク佛教外ノモノ、如シトイヘドモ左ヨリ
之ヲ察スルトキハ豈ハカラシ佛敎界内ノ一隅ニ居セリ之ヲ考ヘズシ
テ豈妄リニ之ヲ破斥センヤ又豈妄リニ之ヲ妄誕ト呼ンヤ然リトイヘ
ドモ彼レ何程深遠幽致ニシテ其奧義トスル所ヲ取リ來リテ之レニ充
分ノ解釋ヲ與フルモ我佛敎中ヨリ之ヲ觀レハ未ダ人天有爲ノ教ニ過
ギザレハ實ニ彼ノ妄見固執ヲ破斥シ彼徒ヲシテソノ正見ニ歸セシム

ルハ實ニ我佛敎徒タルモノ、大ニ勉ムベキ所ナルベシ然リト雖未ダ
彼教ノ分派組織ノ何タルヲ知ラス且ツ其教旨如何モ識別セスシテ漫
然彼諸教ニ向テ之ヲ評論セハ彼レ之ヲ受ル亦漫然ニシテ毫モ當ル所
ナク蓋シ識者ハ之ヲ嘲笑シ達者ハ之ヲ慨嘆スルニ至ルナラン余コ、
ニ見ル所アリ宗教一斑ノ一篇ヲ草シ全世界現布ノ諸宗教派ヲ細羅シ
讀者ヲシテ一見ノ下ニ能ク宗教全世界ノ組織教義ヲ知ラシメント欲ス
故ニ各教各宗派ゴトニ起原教義ノ二節ヲ分チ起原ノ節下ニソノ宗派
ハシメテ世ニ與リシ年時且ツ、開祖、傳來及ソノ宗派ノ爲メニ起リシ
事跡ノ概要等ヲ記シ教義ノ節下ニソノ教派ノ旨義要領ヲ記シ併セテ
余ノ意解ヲ加フ大尾ニ諸教ノ眞妄ヲ兩洋諸教ノ上ニ審判シ以テ余ノ
意ノ在ルトコロヲ知ラシメント欲ス乞フ之ヲ了セヨ頃日西村居士屢
々來リテ出版ヲ懇懇ス辭スルニ由ナク居士ニ託シテ活字ニ附セシム
鹿卒ノ舉國ヨリ誤謬ヲキチ保セス大方同惑ノ諸士ヨ此書ヲ以テ學宗

參考ノ一ニ供シ玉フアラハ余ノ幸亦甚之レニ過キザルナリ
 明治廿二年十一月盡日
 宗教全界
 猶太教
 東宗希臘教
 西宗天主教
 古教ウエダ教
 中世教婆羅門教
 近世教アラナ教
 佛敎
 聖道門
 淨土門
 淨土宗諸派
 淨土真宗
 華天密
 禪三論法
 相俱舍律
 宗及日蓮寺
 基督新教
 路德宗
 者ニ識



西洋教總論

第一節分派 凡ソ西洋諸教ノ正依タル教書ニアリ一ヲ舊約全書ト云
 ヒ一ヲ新約全書ト云フ旧約全書ハ猶太教ノ經書ニシテ新約全書ハ耶
 蘇諸派ノ主トシテ用ル所ナリ旧約書ハ天帝ノ十戒及ヒ摩西ノ教義事
 蹟等ノ事ヲ載ス新約書ハ耶穌基督ノ教義及其奇跡等ノ事ヲ記ス凡ソ
 西洋教ノ始メハ猶太教ニ起リテ耶穌教之ニ次グ基督ノ滅後其教東西
 ニ兩宗ニ分レ東ハ希臘教ニシテ西ハ天主教又羅馬教トモ云フ數百年
 ナ經テ羅馬教中ヨリ數多ノ改教黨起リ各々自說ヲ唱ヘ其極遂ニ數派
 ナ分ツニ至ル其重タル者ニアリ即チ一ハ路德宗ニシテ一ハ基督新教
 教ナリ如此ハ是レ西洋諸教分宗ノ大要ナリ

猶太教

起原 教義

太教ノ世ニ弊害多キヲ憂ヘ何卒之ヲ一洗改良シ其教ヲシテ世ノ有益
有用物タラシメン爲メニ百万辛酸ヲ嘗メ千慮身ヲ醢チニシ自ラ我レ
ハ上帝ノ眞子ニシテ彼預言ニ應スル者ナリト云フモ猶太教徒ハ敢テ
之ヲ信セス加之反テ大ニ惡ムトユロトナリ其極遂ニ慘酷ノ刑ニ處セ
ラル、ニ至ル乃我垂仁帝六十一年ニ方リ齡三十二ニシテバイノード
王ノ爲メニ磔柱ニ死セリ如此教祖基督ハ一旦十字架上ニ擊殺サレテ
非命ノ死ヲ得ルモ死後三日ニシテ忽然復蘇生シ門徒中ニ留リテ法教
ヲ説ク凡ソ四旬間ニシテ復昇天セリト云フ

東宗希臘教又カソリック教

起原
教義

第五節起原 耶穌基督一旦磔柱ニ擊殺セラレ、モ其教徒ハ反テ之ヲ
世人ノ罪苦ニ代レル者ナリトシ其高第ナル十二使徒ヲ始メトシ一身

ヲ以テ教宗ノ犧牲ニ供スル者頗多シ是レ蓋シ教祖慘死ノ反動力ニ
シテ其遺教年ヲ經テ益々盛ナルニ至ル物異リ星移リテ紀元一千一百
年代ニ至リ其教東西ニ二派ニ分流ス共ニ角立テ各々其教會ヲ盛ナ
ラシム其東教會即今教ナリ今其分流ノ事由ヲ記スルニ往古基督教會
ヲシユリニサレシニ創世シ門第等始メテ福音ヲ講セシヨリ延テ
アンチオキヤ、コンスタンティノープル、ローマ、ユネス、タラント、
邦ニ行布アルニ至ル蓋シ當時羅馬ノ盛ナル稱シテ四方政府ノ中樞ト
爲ヌ此時基督教ノ盛ナル亦該府ヲ以テ天下ノ最ト爲ス然リ而シテ基
督降世第四紀ノ頃ヨリ其都ヲユネス、タラント、ニ遷セシヨリ
羅馬聖會ノ權勢漸ク振ハサルニ至ル是レニ依リテ新都ノ教會耳ニテ
其下風ニ立ツチ肯セサルヨリ西都ノ教會交々異論ヲ生シ兩會共ニ位
階ヲ爭フニ始リテ瞻禮執行ノ時ニ及ヒ次テ兩會管轄ノ限界救主肉躰
ノ論神靈通越ノ說偶像信拜ノ事等此外百端瑞岐未ニ至ルマデ兩會互

ニ異説ヲ唱ヘ隨テ兩會ノ軋轢漸ク甚シク互ニ怨謗ヲ極ムルニ至ル如
此數百年ニシテ延テ紀元一千一百年代ニ至ル時ニ羅馬聖會ヨリ數使
夫ユンスタンチノールニ差シ共ニ和ヲ講センコトヲ試シ使人事就
ラザルヲ以テ歸リ告ク是レニ於テ羅馬ノ教會ト教交ヲ斷ツノ誓ヲ作
リ以テセイントツフヒテノ神壇ニ足ス是レヨリ斷然交ヲ斷ツテ通セ
ズ是ニ於テニ基督教始メテ東西兩派ニ分ルト云フ
第六節教義 現時此教魯西亞ノ統轄タル歐亞兩洲及墓地利等ニ最モ
盛ニ行布ス是レ全クユンスタンチノール教王ノ教政ノ波及スル所
ユロナリト云フ凡ソ希臘教々義ノ天主教ト異ナル点ハ第一ニ聖靈ハ
專ラ上帝ヨリ來格スルノ説ヲ主張シ第二ニ拜堂ニ偶像ヲ置クヲ非ト
シ第三聖者過分ノ功ハ衆人爲ヌ所ノ不足ヲ補フト云フノ説ヲ聽ガ
ル等ノ數事ニシテ其天主教ト其旨ヲ問フスル點ハ第一ニ神ニ代ヘテ
聖者ヲ拜シ第二ニ祭主神ニ代テ罪ヲ救フ等ノ條件ニシテ其神ノ垂
ン

シ十戒ヲ守リテ天國ニ生ヌルコトヲ信スルヲ安心ニ至リテハ耶蘇諸教
ノ共ニ安心トスル所ナリ

西宗羅馬教又天主教又ローマンカソリック教

起原

教義

第七節起原 現今羅馬ノ國タル頗ル衰頹ニ及ブト雖往時ニ在リテハ
羅馬ノ隆盛ナル實ニ四方ヲ壓抑スルノ威力アリ然リ而紀元第七百年
代ノ帝シアーレマンノ父ベビン帝ハ伊太利ヲ三分シテ其一ヲ統轄ス
ル世務ノ主長ニシテ又自ラ教主ト爲レリ是レヨリ世々ノ帝王相尋キ
延テ一千一百年代ニ至リ其教東西二教會ト分ルニ及テ當時ノ帝王
使テ東教會ニ遺ハシ共ニ同合一致シテ其教會ヲ盛ナラシメシコトヲ計
ルト雖東教會之ヲ肯セサルヲ以テ退テ我教會ヲ盛ナラシムルニ至ル
卽此教宗ニシテ此教ノベチヂチトドミニカン、システリアン、等

ノ教會諸所ニ在リテ現時メキシユナイテッド合衆國ブランシリスエーデンイタリー諸國ニ蔓延シテ隆盛ナリト云フ

第八節教義 概シテ今教ノ他教ニ異ナル條件ハ第一ニ人界ト天界ノ間ニ煉罪處アリ凡ソ人死スレハ其魂魄一旦此所ニ至リ生前ノ罪過ヲ罰セラル故ニ死者ノ爲メニ冥福ヲ祈ルヲ教法ニ合フトシ第二ニ赦罪凡ソ人隱罪ヲ犯ストキハ數條ノ懺悔苦行ヲ爲スヘキニ教師ノ力ニ依リテ能ク之ヲ赦スヲ得ルトシ第三獨リ神語ノ書ニ載スルモノ、云テ以テ信奉ノ規條ト爲サス必ス世々教中ニ傳ヘ誨ル所ヲ以テ聖書ノ導子ト爲シ第四獨リ自教ヲ以テ唯一眞教ト爲ス等ナリト云フ

路德宗

起原

宗義

第九節起原 今教創メテ分離スルノ初際ニアリテハ其教長タル法王

ハ西國基督教ノ專權主ト爲リ各國ノ王者民人若シ其宣言ヲ聞カハ恐悚シテ敢テ其命ニ隨ハザル者ナカリシ然リト雖盛ハ衰ノ兆、福ハ禍ノ門、如此盛ナルニ至ルヲ以テ百弊稍々隙ヲ窺フテ入ル故ニ其教ヲ奉ズル者漸ク之ヲ覺リ之ヲ憂ヘ憤勵シテ阻退セシテ務ム而シテ凶惡猛烈其勢百方スレ共拒ム能ハズ遂ニ一千五百年代ニ望リ四方有志ノ徒競ニ起リテ自ラ改教黨ヲ稱シ羅馬教會ヲ離レテ大ニ其習弊ヲ改ム此勇決ノ舉アルニヨリ歐洲大陸ニ於テ更ニ一宗ヲ創起セシモノ即本宗ナリ是レ今宗分派ノ事由ニシテ教祖路德ハ日耳曼ノヤンセンニ降生シ從來世ニ盛ニ行ハレシ天主教ノ大ニ世ニ弊害アルトテ發見シ之ヲ憂ヘ遂ニ之ヲニ洗改良シテ一派ヲ特立公唱セシハ即此宗ナリ然リト雖此宗門改革ノ爲メニ非常ノ生命ヲ害セシテ數ヲ知ラズ日耳曼列國ノ諸侯帝ハ共ニ路德改教黨ニ與ミシ大ニ之カ改良ヲ唱フルモ士民未タ旧教ニ心醉シテ改メズ其間互ニ異論ヲ生シ其極遂ニ兵ヲ舉

テ之ヲ討伐スルニ至ル尋テ歐洲全土ノ大争亂ト爲リ時ニ暫ク休憩ノ日ナキニアラスト雖兵離延テ熄マス凡二十年間ノ久シキ其間之カ爲ニ空ク生命ヲ幽谷ニ投スル五千万人ノ多キニ至リシト云フ方今此教ノ各國ニ盛ナル數千万ノ生命ニ代ヘテ然ルモノト云フモ一理ナキニ非ルナリ

第十節宗義 凡ソ今教宗義及義式等ハ今教々書中廿二則ノ信條ナルモノアリテ今ユ、ニ逐一記スルニ遑アラスト雖其重タル條件ノ一二ヲ舉レハ第一靈魂ヲ救フ爲メニハ洗禮ヲ必要ナリトスルヲ第二聖餐ノ中ニ救主ノ神靈存スト爲スト第三罪狀ヲ具述セスシテ懺悔ヲ爲スヲ第四前非ヲ懺悔シ信心ヲ改ムルヲ以テ苦悔ノ式ト爲スト等ナリ

基督新教

起原

教義

第十一節起原 基督新教ハ今ヲ距ル凡ソ三百六七十年前乃紀元一千五百二十年ノ頃日耳曼ニ降生セシマルチンルーセルノ主唱セル所ナリ教祖マルチンルーセルハハ天主教中ニ生レテ彼路德教祖ト同ク改教黨ノ一ニシテ羅馬法王己ニ一身ヲ以テ政教二者ノ主長タルヲ以テ歐洲人民ノ宗教ニ對スル大ニ世ニ弊害アルヲ歎キ其極遂ニ羅馬法王ノ指揮ニ服セス新タニ一教宗ヲ別立スルニ至ル是レ今ノ耶穌教ニテフロテスタントト稱ス是レ實ニ開闢新教ナリ此ニ於テ羅馬教及希臘教ヲ旧教カソリツクト唱スルニ至ル如此ニ教共ニカソリツクト唱スト雖余思フニ單ニカソリツクト唱スルトキハ希臘教ニシテ天主教ヲハローマンカソリツクト撰デ呼ブナリ

第十二節教義 今教ハ彼路德宗ト同ク齊ク改教ノ一派ナレハ第一上帝審判ノ日早晚來ルベキヲ第二罪ハ人ノ自ヲ招クトコロニシテ神ノ之ヲ來スニ非ルヲ第三善國ヨリ必要ナリト雖未ダ之ヲ以テ解罪ヲ得

ルトスベカラザルト等概チ其教義ヲ同フス只其異ナル点ハ一ハ國王
ヲ以テ教政ノ主長トシ一ハ聖會ヲ以テ教政ヲ管理スル無上ノ權ヲ有
ト爲スニアリ

東洋教總論

第十三節種類 余ハ曩キニ宗教一斑ヲ判圖シテ東洋教西洋教ノ二大
綱目ヲ判別シタリ而シテ已ニ西洋教一斑ノ概様ヲ記シ了ルヲ以テ是
レヨリ更ニ東洋教一斑ノ大要ヲ提記セント欲ス抑々此ニ余ガ東洋教
ト唱セシモノハ地球上イラル山以東ノ七億五千萬ノ人類中ニシテ始
メテ世ニ起リシ教宗ニ與フルノ名ニシテ即チ佛教娑羅門教及回教等
ヲ總唱スルノ辭ナリ然リ而此東洋教ハ彼西洋教ノ一天神耶和華ヲ奉
信スル一神教派ト異ナリ其種類一邑々ニシテ一神教アリ多神教アリ
又我佛教ノ如キ無神教アリ大ニ其性質ヲ異ニシテ極メテ一順ヲナス
ト雖齊シク皆東洋諸國ニ於テ創開セシ教ナルヲ以テ余ハ地位上判シ

テ東洋教ト斷定スルナリ

回教

起原

教義

第十四節起原 此教始メテ世ニ起リシ年月ハ諸家ノ說極メテ一定ナ
ラサルヲ以テ詳カニ之ヲ知ル能ハスト雖其正史ト認ムルモノニ據ル
ニ今ヲ距ル凡ソ一千三百年前乃耶穌紀元五百八十年我欽明帝三十年
ニ方リ馬哈麥ナル人阿刺伯^{アラビヤ}ニ起リシ之ニ原スト云フ教祖モハメツト
ハ生レテ數十年間赤貧家計ノ辛苦ヲモ厭ハス東方希臘天主等ノ世ニ
弊害多キヲ歎キ往テ其教ヲ改良セント欲スルモ其教尙國王ノ管轄ニ
シテ未タ其權勢頗ル強キヲ以テ倒底モハメツト一人ノ力ヲ以テ其弊
習ヲ一洗改良シテ以テ世ノ有益教ト爲サシムルト難キヲ知り原素ヲ
猶太耶穌兩教ノ間ニ取り退テ一新教ヲ本國ニ創開セシハ即此教ニシ

テ其洋ヲ東西ニ異ニスト雖其性質上ヨリ之ヲ觀ルトキハ大ナル懸隔
 ナキヲ知ルナリ故ニ余ハ此教ヲ判シテ一神教ニ攝スルナリ
 第十五節教義 凡ソ此教々徒ノ奉スル所ノ教義法律及修身ノ道一ニ
 皆載セテ今教々書ヨリヲ一ン中ニアリト雖今其概要ヲ記サハ此教之
 ナ大判シテ教義教事ノ二類ト爲ス謂ク教義トハ其教中說クトコロノ
 教義ニシテ即上帝并ニ神使ノ在ルコト及ユイラ一ン中載スル所ノ垂訓
 ノ眞ニ神意ニ出タルコト又其預言者ヲ疑フベカラザルコト及再生并ニ
 終審末日ノ在ルコト尙上帝ヲ命スル所ハ決シテ背クベカラザルコト等ノ
 類ナリ謂ク教事トハ此教中說ク所ノ事ニシテ禮拜ノ式或ハ齋忌布施
 斷飲及メツカニ詣賽スル事等ヲ云フナリ而シテ彼ユイラ一ン書中ニ
 說ク所ニ據ルニ眞神唯一ノ教ヲ奉シ且ツ馬哈默ノ預言者タルコトヲ信
 スル人ハ眞ニ神意ニ稱フ人ニシテ此人現世ニ壽福ヲ享ク死後其天國
 ニ至ルコトヲ得ト云フ余考フニ此教原猶太教ト耶穌教ノ中間ノ旨義ヲ

取り以テ教宗ヲ立タル者ナリ何トナシハ今教々徒基督教ノ元素ヲ包
 含スル四大教祖ヲ崇奉スレハナリ四大教祖トハ即天帝ノ眞友ナルア
 ブラハム天帝ノ預言者ナルモゼス天帝ノ勞動者タルシハヤス天帝ノ
 使者タルマホメツト是ナリ今教徒已ニ之ヲ崇奉ス是レ何ノ故乎蓋シ
 其元素ヲ彼教ニ取レハナリ

古教ゾエダ教

起原

教義

第十六節起原 此教ハ即ゾエダ書中ニ說クトコロノ教ニシテ其書始
 メテ成ルノ日ハ今詳ニ之ヲ知ル能ハスト雖史家ノ說ニ依ルニ耶穌起
 原前千二百年ヨリ千四百年ノ間ニアリト云フ是レ眞ニ印度古昔ノ法
 教ニシテ又世界第一ノ古教ナリ
 第十七節教義 凡ソ此教ノ旨義ハ日月星辰水火風雨天地氣空皆神ト

シ以テ之ヲ妄信シ多クハ現世ノ利福ヲ祈禱スルニアリ又死後己ノ奉
スルトコロノ神ニ助ケテテ神處ニ至ルヲテ説クト雖神壽ハ不死無
究ノモノトセス只人生ノ如キ年日ヲ以テセス其界ノ年月ヲ以テ之ヲ
數ヘ其長生ヲ説クノミ余ヲ以テ之ヲ考フレハ人天有爲ノ教ニシテ未
タ死生ヲ離レタル眞解脱ヲ得ルノ教ニアラサルヤ明ナリ

中世教婆羅門教

起原

教義

第十八節起原 今教ノ創メテ世ニ興リシハ今ヲ距ル凡ソ二千五百年
ニアリテゾエダ教ノ廢シテヨリ凡ソ五六百年ノ後ナリ
第十九節教義 此教亦衆神ヲ崇奉スト雖其主トシテ信奉スル神三ア
リ謂クアラマビシニユ一及シバノ三神是ナリ此教ノ創メテ印度ニ起
ルヤ己前ゾエダ教ノ世ニ盛ナリシ當時世人ヨリ大ニ崇尊セラレシイ

ンドラ、アグニ一等ノ諸神其勢減シテ世ニ振ハス世人復之ヲ尊崇セ
ザルニ至ル是レ皆盛者必衰巡環無常ノ定則ニ合スルモノナリ當時イ
シドラ、アグニ一等ノ諸神ニ代リテ起ル所ノアラマビシニユ一及シ
バノ三神ハ頗ル世人ヨリ崇奉セラレ其極遠ニ世人ナシテ彼等三神ハ
万物ノ創造主ニシテ又印度四姓ノ民人モ皆其神跡中ヨリ化生セモノ
ナリト云フノ妄信ヲ起サシムルニ至ル然リ而此教中説クトコロノ言
ニ由ルニ日夜地上ノ万事ヲ冥護スルニ其神八神アリト云フ即天神火
神地獄神日神水神風神福神月神ノ八神ニシテ此外土人ノ妄信シテ世
ニ現存セリト爲ス神亡處三億三千万人アリト云フ其他奇怪妄説ノ多
キ一々此ニ牧擧スルニ其地所ヲ存セスト雖凡ソ此教ノ旨義ハ又天神
ヲ崇奉シテ死後其國ニ至ラントテ期シ併セテ現世ノ壽福ヲ祈禱スル
亦ゾエダ教ト異ナルコトナシ

近世教アラナ教

起原

教義

第三十節起原 起原亦詳ナラス史家ノ説ニ據ルニ凡ソ耶穌紀元八百
 年ノ頃ヨリ早カラスト云フ近世ヒンヅースタン地方ニ最モ盛ニ行ハ
 ル、所ノ法教ナリ
 第廿一節教義 印度ニ於テ古來土民ノ祀ル所ノ諸神甚々多シト雖土
 人悉ク此衆神ヲ祀ルニハアラス各派ノ教徒各其祈ル所ノ神アリテ其
 中ビシニユー、シバ、ノ二神最モ世人ニ尊祀セラル、ト云フ此教中漸
 シ分レテ數派アリト雖現今最モ盛ニ其地ニ行ハル、教派ニアリ一チ
 バイシナバスト云フ即ビシニユー神ヲ祀ルノ教派ナリ一チサイバ
 ト云フ即シバ神ヲ祀ル教派ナリ此諸教派已ニ其派ヲ異ニスト雖ソノ
 奉スル所ノ教旨ニ至リテハ概シテ異ナルヲナシ凡ソ此諸神教派ハ各
 其奉スル所ノ神、日月星辰國土山川草木土石人獸虫魚皆其神ノ造ス

ル所ナリト云フ禍福賞罰皆其神ニ歸ス故ニ其神ヲ信シ其神ヲ奉シテ
 神意ニ隨ヘハ即神處ニ至ルコトヲ得テ無窮ノ快樂ヲ受クト云フ是レ今
 教ノ大義ナリ

佛教總論

第廿二節出世ノ元意 佛家ノ所談通常世人ノ凡眼ヲ以テ容易ク窺フ
 所ニアラス教祖釋迦世尊ハ今ヲ距ル凡ソ二千八百餘年前乃我神武紀
 元前三百六十八年ニ方リテ中印度迦毗羅衛國第三十七代ノ帝淨飯王
 ナ父トシ善學長者ノ長女摩耶夫人ヲ母トシ世ニ降生シ玉ヘリ是跡門
 應化ノ佛ニシテ能ク降誕入寂古今歲月ノ差別ヲ示スト雖其本門眞覺
 ノ上ニテ之ヲ云フホキハ非古非今ノ妙覺ニシテ古今ノ知ルベキモナ
 イ東西ニ分ツベキモナシ待對ヲ思議ノ門ニ離レ言象ヲ筌筮ニ絶シ湛
 然寂靜獨リ果極ノ淨土ニ居ス是レハ是レ本門智佛ノ常例ナリト雖亦
 能ク悲門ニ出テ三界ヲ觀玉フニ六道ニ衆生將ニ果極ノ証悟ニ至ルヘ

キ如來以性德ヲ各自ニ具有スト雖垢障覆フコ深クシテ自ノ力ヲ以テ
之ヲ顯証スルコ能ハス空ク六道ニ輪轉シテ長時ニ苦ヲ受ク佛ノ大悲
恬然シテ默スルニ忍ビス驚愕身ヲオドシテ火宅ノ門ニ入り玉フ水
ニ溺ル、人ヲ救フニハ自ラ水中ニ入ラサルベカラス泥中ニ溺ル、人
ヲ救フニハ亦自ラ泥中ニ入ラサルベカラス佛三界ヲ觀玉フニ六道ノ
衆生皆三毒虚偽ノ泥中ニ或溺シ己ニ輪轉シテ窮リナシ佛此衆生ヲシ
テ畢竟大安樂ノ地ニ至ラシメント欲ス六道ノ衆生己ニ貪瞋愚痴ノ泥
中ニ溺迷シ生死ノ大海ニ沉惑ス佛之ヲ救フテ佛果ノ彼岸ニ度セント
欲ス豈自ラ此中ニ入ラスシテ之ヲ濟救スルコヲ得ンヤ是レ諸佛ノ獨
リ佛果ニ住セスシテ常ニ時機ヲ觀見シ煩惱ノ泥中生死ノ海中ニ出現
應化シ玉フ所以ナリ

第廿三節教主 釋迦牟尼世尊ノ出世ハ物留孫、物那含等ノ過去七佛
出世ノ後ニ有テ前佛迦葉ノ附屬ヲ受テ世ニ出現シ玉ヘリ釋尊母胎ニ

入托シ玉テヨリ入涅槃ノ夕ニ至ル一代ノ事蹟ヲ述フルニ古來八箇ノ
定說アリト雖今具ニ之ヲ記サス幼名悉多ト名ケ成道後釋迦牟尼佛ト
号ス幼童常人ニ卓絶シ七歳ニシテ始メテ出家ノ志シテ起シ延テ十九
歳ニ至リ眞ニ出家シテ入山學道シ玉ヘリ生レテ出家入山ノ年ニ至ル
十九年間ハ數万ノ雜藉ヲ通觀シ遠ク古今ノ歴史ヲ播キ博ク四方ノ人
情風俗ヲ察シ亦大ニ當時ノ學文宗教ヲ研究セリ凡ソ世道百般ノ諸學
ハ上ハ天文下ハ地理算計文藝弓射馬術或ハ後園ニ出テ武ヲ講シ藝ヲ
試ミ一トシテ學セザルハナシ然リト雖モ心理迷悟ノ一点ニ至リテハ
世ノ學師當時ノ波羅門ヴェダ等諸教宗ノ徒モ未ダ知識セザルトユロ
ニシテ釋尊此ニ大ニ見ルトユロアリテ迷悟心理ノ一点ハ到底世ノ學
師ニ求ムヘカラサルヲ知リ且ツ生老病死ノ無常ノ悲ミハ眼前ニ横遮
スルヲ以テ斷然不拔ノ精神ヲ發起シ齡十九歳ニシテ王位珍寶ヲ顧ミ
ズ城ヲ越ヘ仙人ヲ師トシ數十年間入山學道ス沉思觀念至ラザルトユ

ロナシ齡三十歳ニシテ成道シ号シテ釋迦牟尼佛ト云フ漢ニ能仁寂默ト譯ス是レ蓋シ悲智圓滿道德ノ兼備ノ義ナリ其實果後ノ方便ニシテ世人ノ能ク知ル所ニアラス乃チ天上天下ニ唯一獨尊ナリ是レヨリ入涅槃ノ夕ニ至ル五十年間初頭華嚴ヨリ終リ遺教經ニ至ル數千万卷ノ心理法ヨリ上ハ天文下ハ地理梵曆悉曇因明學製藥技術醫法學工業聲明物理學世人ノ道德脩身學上ハ王后大臣ヨリ下ハ吾人ノ務メ向キ人身窮理ニ至ルマテテ総テ内明外明ノ法大小權實漸頓半滿真俗八諦ニ説キ分チ法性眞如ノ原理ニ基キ原因結果ノ定則ヲ示ス是レ釋迦牟尼世尊一代ノ教事ニシテ余此ニ宗教一斑ノ概要ヲ舉ルニ天下宇内ニ此ノ右ニ出ルノ教在ルヲ見ザルナリ是レ眞ニ宇内ノ眞教ナリ故ニヤ方今多種ナル法教中我佛教ヲ奉信スルモノ與地上三分ノ一強ニシテ即チ東ハ日本北ハ高麗蒙古西ハ前後藏西南ハ雪山尼八利南天竺外錫蘭海峽南ハ暹羅緬甸等其他支那カシミル更ニ近時

西傳セシ泰西諸國ハ先其教會ノ設置シアル所ヲ舉レハ英吉利西ノ龍動府日耳曼ノ伯倫府佛國ノオーヴン府及巴里府露國ノオゲツサー希臘ノカアーフー和蘭墺國合衆國ノ紐育及桑港波頭府費府華盛頓府シカゴ亞弗利加ノクエスタン府濠洲ノプリスペイン府等ノ諸國ニシテ其奉信者ヲ舉レハ七億五億万人ヲ下ラスト云フ何ソ奉教者ノ多キ是レ天下第一ノ眞教ナル故ナルヘシ

華嚴宗

起原

教義

第三十四節起原 馬鳴龍樹ノ二大士創メテ此宗ヲ印度ニ開ク震且ノ杜順之ヲ承ケテ唐土ノ祖トナル智儼之ヲ承ケ香象之ヲ傳フ香象ノ此宗ニ功アル皆人ノ知ル所時ノ帝王謚シテ賢首菩薩ト云フ經論解釋製造著述ノ多キ蓋シ此師ノ右ニ出ル者ナシ清涼宗密尋テ世ニアリ本朝

ノ沙門道璿傳ヲ賢首ニ承ケ以テ良辨光智ニ傳フ是レ今宗傳來ノ大様ナリ

第廿五節教義 第一今宗ハ一乘大乘ノ華嚴經ヲ以テ一宗ノ正依トシ且ツ經名ヲ以テ宗名ヲ立ツ第二今宗一代教ヲ判シテ五教トナス謂ク一ニ小乘教即チ阿含等ノ小乘教ヲ云フ二ニ始教深密瑜伽唯識等ノ諸大乘經論三ニ終教涅槃經等四ニ頓教諸經中ノ即心是佛ノ頓說五ニ圓教華嚴法華ノ二教ニシテ特ニ華嚴ヲ依經トナス之ヲ約スレハ漸頓二教ナリト云フ第三安心此教上ニ舉ルカ如ク五教ヲ以テ一代教ヲ判シ第五圓教ヲ以テ一宗ノ教義トス謂ク三界ハ唯一心ニシテ心外ニ法アルトナシ故ニ我人今眼前ニ現見スル所ノ森羅ノ諸象其相實物ニ似タリト雖實ヲ尅スレハ唯虛妄變現ノ因緣假相ニシテ其實體アルモノニアラス心佛及衆生是ニ一無差別ニシテ染淨同躰會テ其實性アルトナシユトナ以テ眞ニ此心無性ト了知スルヲ宗ノ安心トス第四此心眞ニ

無性ト知ル已上ハ證リノ眞智ニ依止シテ造業菩薩ノ行功ヲ積ミ無始ノ妄習ヲ滅亡シテ一念モ生セザルヲ妙覺果滿ノ究竟位トス實ニ大乘究竟ノ法教タルヘシ

天台宗

起原

宗義

第廿六節起原 此教宗唐土ニシテ開ク惠文南岳乃チ元祖ニシテ智者一宗大成ノ高祖タリ惠文南岳其義綱ヲ提クト雖未ダ教時ヲ判セス智者始メテ之ヲ判ス是レ一宗ノ開祖タル所以ナリ次ニ章安世ニ出テ結集ノ功アリ智威玄朗亦此宗ノ人ニシテ惠威妙樂他師ニ異ナリ義通智禮淨覺之レニ次ギ道邃行滿道羅及智雲皆傳ヲ妙樂ニ承ク本朝ノ沙門傳教遠ク波上ヲ渡リ傳ヲ道邃ニ承ケ以テ本邦ニ傳フ是レ本朝ノ傳祖ニシテ義眞慈覺尋テ世ニアリ智證亦當時ノ人ニシテ助ケテ此宗ヲ弘

△是今教弘傳ノ大様ナリ

第廿七節教義 第一法華ヲ以テ依經トシ地名ヲ以テ宗名ヲ立ツ第二
一代教ヲ判シテ八教五時トス釋迦出世ノ本懷ハ圓頓圓融ノ妙法唯一
法華ニ限ルト斷定シ以テ依經トス第三一宗ノ旨義ハ圓頓妙法ヲ説ク
法華ニ依テ成佛ヲ期スルモノニシテ其教義ノ大要ヲ舉ルニ染淨二界
ノ諸法ヲ總唱シテ三千ノ諸法ト云フ謂ク上佛界ヨリ下地獄界ニ至ル
凡聖合シテ十界アリ此十界各々相性體力作因緣果報本末究竟等ノ十
如是ヲ具スルヲ以テ十界百如トナリ此十界各餘ノ九界ヲ具シテ百界
千如トナリ之レニ五陰衆生及國土ノ三世間ヲ合ス都合之ヲ三千ノ諸
法ト云フ此三千ノ諸法宛然吾人一念ノ心性ニ具足シテ本來不動ナリ
衆生此理ニ觀達セザルカ故ニ迷テ端ナシ如實ニ此理ヲ觀達スルトキ
ハ煩惱モ即チ菩提ナリ生死モ即チ涅槃ナリ故ニ此理ヲ觀メ真境ニ至
ラントナ務ムルハ即チ一宗ノ宗義ニシテ之ヲ觀スルニ空假中三諦ヲ

以テス七泯三千ト觀シ雖亡而存ト觀シ非有非空非三非一ト觀スルト
キハ此三千ノ諸法宛然衆生ノ心性ニ居シテ真ニ心外ニ法ナキヲ知リ
此三千在一念心若無心而已介爾有心即具三千ノ真致ニ達スルトキハ
是レ真ニ法身如來藏ナリト云フ是レ今宗教義ノ概要ナリ

眞言宗

起原

宗義

第廿八節起原 今ヲ距ル凡ソ二千一百餘年前南印度ニ於テ龍猛菩薩
創メテ此宗ヲ興シ以テ龍智ニ傳ヘ善無畏金剛智一行不空ヲ經テ以テ
惠果ニ至ル光仁桓武ノ朝本邦ノ沙門空海遠ク海波ヲ渡リテ惠果ニ謁
シ惠果授クルニ此宗ヲ以テス空海還テ之ヲ本邦ニ弘ム乃チ本邦弘宗
ノ祖トナル宗祖空海ハ我四十九代光仁帝寶龜五ニ屏ケ浦五岳山ニ生
レテ五十四代仁明帝承和二ニ行年六十二ニシテ入定ス是レ本宗古義

派ノ大祖ニシテ後七十三代堀河帝ノ朝ニ覺鏡ナル者世ニ興リ空海ニ次テ一派ヲ起ス是レ今ノ本宗新義派ニシテ已上述フル所實ニ本宗興起ノ大縁ナリ

第廿九節宗義 一代經ヲ判シテ顯密ノ二教トナシ顯露ノ諸宗ヲ貶淺シテ自内証ノ秘密一法ヲ深遠最上ノ法ナリト主張ス大日三昧金剛頂ノ三經ニ依リテ理具加持顯得ノ三成佛ヲ建立シ金胎兩部理智二藏界ノ諸佛諸菩薩諸法等一切我人ノ唯一心中ニ處シテ歷然タリ此理ヲ證得スル即一宗ノ安心ニシテ口ニ眞言ヲ唱ヘ手ニ印契ヲ結ビ意ニ觀念ヲ凝ラシ三業相應シテ遂ニ證果ヲ得ル是レ則其修道ニシテ其秘法淺行輩ノ容易ク得ヘキ所ニアラス故ヲ以テ未タ受職灌頂ノ位ニ至ラサル者ハ之ヲ授受スル能ハスト云ヘリ是レ本宗々義ノ大要ナリ

佛心宗

起原

教義

第三十節起原 今宗佛在世ヨリ承傳シテ以テ今日ニ至ル、佛涅槃ニ入り玉フトキ迦葉ニ對シテ完爾ト笑ヲ含ミ玉フ伽葉亦共ニ笑ヲ含ム是レ其傳授ノ眞時ナリ爾來廿八祖相傳ヘテ以テ達摩ニ至ル達摩ハ香至國王ノ第三子ナリ梁ノ世大師之ヲ漢地ニ傳フ諸師相傳ヘテ以テ第五祖ニ至リ南北兩端ニ承傳シテ南宗亦五家ヲ分ツニ至ル釋ノ道 北宗ノ傳ヲ承ケテ之ヲ本邦ニ弘傳シ本邦ノ沙門榮西崇德ノ朝ニ興リ長シテ本宗ヲ弘興シ土御門帝ノ時建仁寺派ヲ起シ禪門總テノ大祖トナル全土御門帝ノ朝道元道隆及辨圓ノ三師共ニ世ニ出テ次後堀河ノ時佛光アリ龜山帝ノ時夢窓此宗ヲ中興シ妙意祖圓以テ世ニアリ後宇多帝ノ時關山宗峰共ニ興リ伏見帝ノ時寂室共ニ世ニ興リ後陽成ノ朝釋ノ院元大明福州ヨリ來朝シ是レ皆一宗ヲ建立シ一派ヲ別立シテ各其祖トナル現時ノ臨濟諸宗派是ナリ

第卅一節教義 本宗固ヨリ以心傳心ノ法ニシテ教外別傳不立文字ノ宗義ナレハ別ニ教判ヲナサスト雖強テ之ヲ推ストキハ教禪二門ヲ以テ一代教ヲ判スルモノ、如シ顯露ノ諸宗ハ不思議ト談スレ共未ダ言辭ヲ離レズ實相ト觀スレ共未ダ善惡ノ思量ヲ離レサルヲ以テ眞ノ悟解ニ契フモノニアラス特リ本宗ハ是レト異ナリ佛、心ヲ以テ心ニ傳ヘ玉フ所ノ源底ヲ明メ以テ本來ノ面目自己ノ本分ヲ顯スナリ故ニ教外別傳不立文字以心傳心直指人心見性成佛ト談スルハ即チ本宗ノ定義ナリ

以上擧ル所ノ華天密禪之ヲ四箇大乘ノ法教ト唱スルナリ

三論宗

起原

教義

第卅二節起原 此論宗大聖文殊菩薩ヨリ起リテ馬鳴龍樹尋テ祖トナ

リ龍智提婆之ヲ承ケ智光清辨尋テ世ニ興リ師子光及羅睺羅沙車又當時ノ人ニシテ共ニ力ヲ此宗ニ尺ス羅什三藏傳ヲ沙車王子ニ受ケ震旦ニ來至シ以テ唐土弘傳ノ祖トナル生肇融叡影觀恒濟曇濟道朗僧詮法朗ヲ經テ以テ嘉祥大師ニ傳フ嘉祥ノ弘宗ニ功アル皆人ノ知ルトコロニシテ稱シテ以テ太祖ト爲ス大師之ヲ高麗ノ惠灌ニ授ケ惠灌來リテ皇朝ニ弘ム福亮智藏尋テ世ニアリ道慈禮光亦當時ノ人ニシテ善議勤操及安澄尋テ此宗ヲ弘傳ス是レ本宗弘傳ノ大綱ナリ

第卅三節宗義 大乘中ノ空門ヲ明スナ大義トス此宗菩薩所造ノ三論及智度論ニ依リテ直ニ經說ニ由ルニ非スト雖其論タル中論百論及十二門論ノ三八釋伽一代通申ノ論ニシテ大小諸經ニ依リテ專ラ破邪顯正ヲ論シ以テ大乘ノ深義空門ヲ顯ハシ知度論ハ別シテ大品般若ヲ釋スルヲ以テ一ニ皆佛教ナラザルハナシ然リ而シテ此宗一代教ヲ判シテ聲聞小乘菩薩大乘ノ二藏教ト爲シ八不ノ正觀ヲ以テ入理ノ眞要ト

ス生滅去來一異斷常ノ見ヲ離シテ以テ善惡情量ヲ忘レ一念不生ノ妙境ニ達スルヲ以テ宗ノ安心トス是レ此宗ノ大義ニシテ眞ニ八不ノ正觀ヲ凝ラシ生死ノ根源ヲ斷ツトキハ期シテ成佛スヘキ疑フベカラザルナリ

法相宗

起原

宗義

第卅四節起原 佛在世ニ在リテ親聞セシ彌勒菩薩今ヲ距ル一千九百年代中天阿瑜遮國ノ瑜遮那講堂ニ於テ始メテ此宗義ヲ説ク無着世親護法戒賢ノ四士次デ之ヲ印度ニ相承シ其後唐ノ玄奘三藏遠ク流沙ヲ涉リテ竺土ニ至リ唐土ニ創メテ此宗ヲ傳フ之レニ歸依スル男女三千餘ノ多キニ至ル其中七十ノ達者四人ノ上足アリテ其弘傳ヲ補佐ス次ニ之カ相承ヲ受ルモノ窺基法師ニシテ慈思溜洲樸揚尋テ世ニ興リ何

レモ支那相承ノ祖トナル延テ本邦ニ入ルヤ分レテ三傳ヲ爲スニ至ル一ハ本邦ノ智通智達玄奘ヨリ傳ヘ一ハ新羅智鳳又玄奘ニ承ケテ義淵ニ傳フ一ハ玄昉樸揚ニ承ケテ善珠ニ授ク是レ則本宗流傳ノ綱要ナリ第卅五節教義 (第一)一代教ヲ判シテ有空中ノ三時教トナス謂ク第一時ニ四阿含等ノ有教ヲ説キ第二時ニ般若等ノ空教ヲ説キ第三時ニ華嚴深密等ノ非有非空ノ妙理ヲ説クト云フ第二華嚴深密瑜伽唯識等ノ六經十一部論ヲ以テ正依ノ經論トス第三万法唯識三界唯一心々外無別法心佛及衆生是三無差別ナリト証悟スル之ヲ宗ノ安心教相トナス然レ共實大乘教者ヨリ之ヲ觀ルトキハ未タ大乘有門ノ位ヲ出デザルナリ

成實宗

起原

宗義

第廿六節起原 佛滅後九百年中訶梨跋摩小乘二十部ノ中ヨリ其最長ノ義ヲ簡取類纂シテ創メテ此宗ヲ竺戸ニ開ク佻秦ノ朝羅什所依ノ成實論ヲ漢土ニ譯シ以テ之ヲ弘傳ス諸師踵ヲ次キ延テ本邦ニ入ルト雖方今殆ト全滅ノ狀ヲ呈シテ僅カニ其宗義ヲ教書中ニ留ムルノミ

第廿七節教義 宗義殆ト俱舍宗ニ近シト雖猶十八有學九無學廿七賢聖位及体空無生等ノ異ナルアリテ俱舍ハ小乘ノ有門ニシテ諸元ノ實体眞ニ有リト立成實ハ小乘極リテ正ニ大乘ニ入ラントスルノ階梯ニシテ當ニ我境ヲ空スルノミナラス諸元ノ体モ亦空ナリト云フ是レ其俱舍宗ト異ナル所以ナリ

俱舍宗

起原

教義

第廿八節起原 佛滅後九百年代世親論主始メテ此宗ヲ竺土ニ開ク光

寶及圓暉等ノ諸師之ヲ唐土ニ傳ヘ玄昉本邦ニ弘ム是レ小乘有門ノ教ナリ

第廿九節教義 (第一)世親論主薩婆多部ニ於テ婆娑及諸教中ヨリ挿出著述セシ阿毗達摩俱舍論ヲ以テ所依ノ論藏トナシ第二諸法ノ性相ヲ研覈シテ無餘涅槃ニ至ルヲ宗ノ旨義トス第三所依ノ本論中三乘ノ斷惑修道ノ相ヲ論明セリ謂ク聲聞ハ四諦ヲ觀シ緣覺ハ十二因緣ヲ觀シ菩薩ハ六度ヲ行ス以テ生死ノ愛河ヲ渡リ各自ノ彼岸ニ至ル其年代劫數ヲ說ク機ノ智鈍ニ由リテ異ナリ或ハ三生六十劫ヲ經或ハ四生百劫ヲ經或ハ三祇百劫ヲ經テ其所ニ至ルト云フ獨リ佛果ニ至リテハ多百千劫ノ修行ヲ積ザレハ其究竟ノ彼岸ニ至ル能ハスト談ス是レ今宗ノ定義ニシテ其大乘諸教ニ異ナル所以ノモノハ三世實有法躰恒有ト談シテ諸元ノ實体眞ニ有リト斷定スルニアリ

律宗

起原
宗義

第四十節起原 元南山ノ道宣創メテ此宗ヲ興ス法時覺明共ニ漢土ニ弘ム大明寺ノ鑿真大ニ此宗ニ功アリ聖武帝ノ時本邦ノ沙門永叔普照遠ク海波ヲ渡リテ漢土ニ行キ傳ヲ鑿真ニ受ク鑿真共ニ來朝シテ始メテ此宗ヲ本邦ニ弘傳ス聖武天皇及百官群臣皆戒律ヲ受ク四百餘人ノ多キニ至リシト云フ

第四十一節教義 一代教ヲ判ノ化制ノ二トシ諸經中ノ四分律十誦律及毗尼戒品等ノ戒律ヲ以テ制教トシ餘經ヲ以テ化教トナス如此一代經ヲ判シ以テ戒品ヲ旨トシ滅罪生善ヲ本トシ以テ佛果ヲ得ルヲ教義トス是レ今教ノ定義ニシテ又大小乘ニ通シ佛法ノ大地タルモノナリ

日蓮宗
起原

宗義

第四十二節起原 沙門日蓮此宗ヲ開ク開祖日蓮ハ後醍醐帝ノ朝房州ニ誕ス人ト成リ聖道諸宗ノ已ニ衰頹スルヲ憂ヘ又一方ニ世人多ク念佛ニ偏スルノ僻アルヲ歎キ之ヲ一洗改良セント欲シ勢一宗ヲ別立スルニ至ル總テ淨土諸宗ノ反對ニ出ル蓋シ此所以ナルヘシ現時日蓮諸派ノ諸國ニ別立スル極メテ多シ謂ク後嵯峨帝ノ時日興甲州ニ生シ長シテ興門派ヲ起シ龜山帝ノ時日印北越ニ生レ長シテ本成寺派ヲ起シ花園帝ノ朝日什奥州ニ生レ長シテ妙滿寺派ヲ起シ後小松帝ノ時日隆越中ニ生レ長シテ八品派ヲ起シ後花園帝ノ時日眞京都ニ生レ長シテ本隆寺派ヲ起シ正親町ノ時日奥又京都ニ生レ長シテ不受不施派ヲ起ス是レ皆現時我邦ニ現存ノ日蓮諸派ナリ

第四十三節教義 一代教ヲ判シテ眞假ノ二教トス法華經ヲ以テ眞實教トナシ餘經皆假教ナリト判定ス一心專唱題目ヲ稱ヘテ其利益ヲ仰

之是レ其宗義ナリ

第四十四節結前生後 已上ノ諸宗諸派ヲ聖道難行自力門ト云ヒ佛教中智ヲ表面トシ悲ヲ裏面トスルノ教ナリ已下ノ淨土諸宗ヲ淨土易行他力門ト云ヒ佛教中悲ヲ表面トシ智ヲ裏面トスルノ教ナリ

淨土宗并ニ末派

起原

教義

第四十五節起原 本邦ノ沙門源空創メテ此宗ヲ皇朝ニ興スト雖其派祖ニ至リテハ各派其祖ヲ異ニセリ元祖源空上人ハ七十五代崇徳天皇ノ朝作州ニ降生シ齡八十ニシテ順徳帝ノ朝ニ寂シ玉ヘリ幼名勢至丸ト名ク是レ勢至菩薩ノ來現ナルカ故ナリ父時國、定明ノ爲メニ害セラレシヲ緣トシ出家シ玉ヘリト云フ爾來觀覺源光及皇圓等ノ碩徳ヲ師トシ博ク内外ノ諸學ヲ修メ一代半滿經ヲ通觀スル凡ソ五六回ニ至

ル以テ釋教ノ源底ヲ極ムト雖遂ニ華天等ノ聖道諸宗ハ宛モ陸地ヲ歩行スルカ如ク難行ニシテ容易ニ行シ難ク且ツ當時ノ時季ニ適合スル所ノ部分ヲ以テ佛教中最モ易行ニシテ且ツ當時ノ時季ニ適合スル所ノ部分ヲ取り來リテ新軌軸ヲ興シタルハ即チ念佛宗ノ一門ニシテ是レ主トシテ善導ノ一心專念彌陀名ノ文ト源信僧都ノ顯密ノ教法其文一ニ非ス事理ノ業因其行惟レ多シ利智精進ノ人ハ未ダ難シトセス予ガ如キ頑魯ノ者ハ豈敢テセンヤ是故ニ念佛ノ一門ニ依ルト云ヘル文トニ據リタルモノナルヘシ當時己ニ源平二氏一度兵權ヲ奮テヨリ國土紛乱國家多事ノ世トナリ苟モ手足ヲ有スルモノハ一日モ家ニ平居スル能ハサルノ日ニ際シタルナレハ華天等ノ高尚深遠ノ教ハ世人之ヲ顧ルノ隙ナキヲ以テ此時ニ際シ平凡修シ易キ人民福利ヲ得ルノ淨土教ニ非レハ亦行ハレザルハ固ヨリ然ル所ニシテ眞俗二諦ノ新軌軸ヲ創起セシ源空親鸞諸祖ハ實ニ時季ヲ洞察シタル者ト謂フヘシ聖光亦當時ノ

人ニシテ鎮西ノ派祖ト爲リ證空又次テ西山派ヲ興ス皆空師ノ徒弟ニシテ九品長樂皆其末派ナリ

第四十六節宗義 淨土門中他力中ノ自力ニシ雜行雜修ヲ聽シ臨修來迎ヲ頼ム是レ其我真宗ニ異ナル所以ニシテ淨土諸宗ノ教義ナリ
淨土真宗

起原

宗義

第四十七節起原 本邦ノ沙門釋ノ親鸞後鳥羽帝ノ朝ニ創メテ之ヲ開ク、其源、大聖世尊ノ懸記ニカ、ル龍樹菩薩ヨリ起リテ三國七祖相傳ヘテ以テ我高祖ニ至ル宗祖、鸞師ハ我八十代高倉帝ノ朝城州藤原家ニ降生シ玉ヘリ時ニ年甫メテ九才興法利生ノ因縁ニヨリテ出家シ範寡小納言ノ公ト号ス天台ノ碩德慈鎮和上ヲ師トシ台家ノ奥義ヲ極メ兼テ諸宗ノ學解ニ通ズ時ニ年二十九才觀音ノ靈告ニ由リテ天台ノ門

ヲ辭シ易行ノ要路ニ入ル即チ空師ノ門室ニ入りテ直ニ出離生死ノ要路ヲ求ム空師授ルニ易行ノ要法、宗ノ源底ヲ以テス忽チニ他力攝生ノ旨趣ヲ授得シ飽マテ凡夫直入ノ真心ヲ決定シ直ニ空師ノ真弟トナリ王ヘリ數百ノ門第中空師ノ真意ヲ傳フ獨リ此師ニ在リ、承元々年丁卯三月十四日空師淨土真宗弘通ノ院宣ニ添書ヲナシ以テ鸞師ニ讓與シ玉ヘリ後、一部六卷ノ書ヲ製シ以テ一宗ヲ成立ス即チ本宗ノ大祖ト爲リ玉ヘリ 明治天皇謚スニ見真大師ノ号ヲ以テシ玉ヘリ是レ悉ク一天四海ニ比類ナキ眞實ノ教宗ヲ皇朝ニ弘興シ玉ヘル宗祖ナルガ故ナリ乃チ真宗十派ノ大祖タリ本宗ノ末派極メテ多シ善鸞出雲派ヲ如淨山元派ヲ光壽大谷派ヲ眞佛專修寺派及佛光寺派ヲ存覺木邊派ヲ經蒙興止派ヲ道性誠照寺派ヲ如道三門徒派ヲ何レモ別派獨立シテ其派祖ト成リ共ニ本宗ノ別派ナリ

第四十八節宗義

(第一)眞俗相資クルヲ以テ一家ノ教義トス二諦ノ

所談國ヨリ一家ノミニアラス博ク諸宗ニ通シテ釋尊一代ノ教博シト雖二諦ヲ以テ之ヲ覆フキハ蓋シ盡サル處ナキナリ故ニ仁王經ニ常照二諦化衆生ト説ク然リ而二諦、本一真中ノ分別ニシテ衆生ノ機ニ順シテ設クルトユロナリ涅槃經ニ世諦者即第一義諦隨順衆生説有二諦ト云フ是レナリ真ハ平等ノ理性ヲ云ヒ俗ハ差別ノ事相ヲ云フ諦ハ其之ヲ誤ラザルヲ云フ真俗二諦延テ八諦ヲ説クニ至ル委クハ義林章二諦章ヲ披クベシユ、ニ贅スルノ餘地ヲ得ス、一家ノ義ミナモト本願ノ攝柳二門ニ起リテ延テ五善五惡ノ勸戒ニ至ル山家大師ノ真諦俗諦遞因而弘教ト云ヘル釋意ニ由リテ二諦相資ノ義ヲ成ス謂ク出世ノ法義ヲ真諦ト云ヒ世俗ノ通義ヲ俗諦ト云フ法ニ在リテハ名号機ニアリテハ信心能所異ナリトイヘドモ其跡一ナリ本願ノ嘉号ヲ全了シタル所ニテ報土往生ノ真因ヲ決定シ命終スレハ必ラス真報土ノ往生ヲ得ル之ヲ真諦トシ信後世俗ノ通義ヲ誤ラザルヲ俗諦トス此二互ニ相

資クルヲ一家ノ宗義トス謂ク圓頂方袍ニシテ而モ畜妻噉肉スルハ真ヨク俗ヲ資ルナリ而此肉妻ノ俗、ヨク在家止住ノ男女ヲシテ易行往生ニ猶豫ナカラシムルハ俗ヨク真ヲ資クルナリ是其二諦相資ノ行儀ニシテ聖德太子兼テ相資ノ行狀ヲ示シ玉フ真宗ノ行儀即チコレニ則リ而宗意安心ハ空師ヨリ真傳シ玉フ所ナリ故ニ我祖云ク我弘ルドユロ專ラ二尊ノ引導ニ順シテ全ク私ナシト是レ略一家ノ宗義ニシテ更ニ之ヲ中祖ノ改悔文ニ求ムルニ初メ安心ノ一節ハ唯真ニシテ俗ニアラス後掟ノ一節ハ唯俗ニシテ真ニアラス中間ノ報謝師德ノ二節ハ亦真亦俗ナリ是レ皆共ニ相助ケテ他力安心ノ表相ナリ(第二)二雙四重ヲ以テ一家ノ教判トス教判亦一家ノミニアラス上已ニ各教宗派ノ下ニ擧ルガ如シ豎出豎超横出横超之ヲ二雙四重ト云フ豎出ハ聖道漸教ヲ云ヒ豎超ハ聖道頓教ヲ云フ横出ハ淨土漸教ヲ云ヒ横超ハ淨土頓教即チ本宗ヲ云フ豎横二出ノ判ハ其源桐江ノ櫻瑛師ノ釋ニ由ルト雖二

超ノ判ハ是レ全ク宗祖ノ自判ナルベシ而シテ上龍祖ヨリ下我高祖ニ至ル貫通シテ以テ廢立ヲ談ス是レ之ヲ一家ノ定義トスルナリ謂ク龍祖ハ難易二道ト判スルモ未ダ二道ノ廢立ヲ成サハル者ノ如シト雖其意自ラ易行道ヲ取ルニアルベシ世親曇鸞共ニ自力ヲ捨テ他力ヲ立ス道綽明カニ聖道ヲ廢シ淨土ヲ立ス善導ハ因相ヲ明カニシ源信ハ果相ヲ詳カニス雜行雜修ヲ捨テ正行專修ニ歸セシメシハ與カリテ善導ニ功アリ報化二土ヲ正ク辨立シ其得失ヲ決判シ報土得出ヲ生人ニ囑勸セシハ專ラ源信僧都ノ勞トス空師亦信疑ノ得失ヲ決判シ疑ヒテ生死輪轉ノ家ヲ出ル障リトシ信ヲ以テ無爲報土ニ入ルノ正因トス是レ一家廢立所談ノ由リテ來ル所ニシテ我祖亦二雙四重ヲ以テ廢立爲正ノ教判ヲ設ケ玉フ之レニ原ス之ヲ委ク云フトキハ先ツ大小二乘ノ中ニハ小乘ヲ捨テ大乘ヲ取り大乘中漸頓二教アリ漸ヲ捨テ頓ヲ取り頓教中聖道淨土アリ聖道ヲ捨テ淨土ヲ取り淨土中亦自力アリ他力ア

リ自力ヲ捨テ他力ヲ取ル是レ眞ノ眞宗ニシテ是レ之ヲ眞中ノ眞頓中ノ頓圓中ノ圓他力中ノ他力一乘究竟ノ妙教ナリト云フ是レ此宗ヲ天下數百ノ教中眞宗ト公唱スル所以ニシテ蓋シ一天四海ニ比類ナキ教宗ナリ故ニ華嚴經ニモ安樂ノ往生ヲス、メ法華經ニモ極樂ノ得生ヲ説ク楞伽ニハ一切ノ佛菩薩一切ノ法ハ極樂界中ヨリ出スルト云ヒ般舟經ニハ三世ノ諸佛皆彌陀三昧ニ依リテ正覺ヲ成ルト云フ實ニ諸經所讚多在彌陀ニシテ八宗ノ大祖龍猛菩薩ハ十二禮及毗婆娑論ヲ製シテ直入彌陀界ト云ヒ頂禮彌陀尊ト云フ天台大師ハ觀經ノ疏ヲ作り華嚴宗ノ元曉師ハ遊心安樂道ヲ作り法相宗ノ慈恩大師ハ西方要決ヲ製シ共ニ以テ彌陀ノ一教ヲ勸ム其他嘉祥惠遠及加才皆他師ニシテ彌陀ノ一法ヲ讚ス是レ蓋シ天下ニ比類ナキ眞教ナルカ故ナリ中祖云ク去レハ自餘ノ淨土宗ニハ諸ノ雜行ヲユルス我が聖人ハ之ヲ撰ビ玉フノ故ニ眞實報土ノ往生ヲ遂グカルガユヘニ別シテ眞ノ字ヲ入レ玉フ

ト是レ本宗ヲ淨土眞宗ト名ケ玉フ所以ナリ

結論

第一佛教ト政法ノ關係

第四十九節 凡ソ人躰ハ五蘊假合シテ以テ一箇ノ体ヲナスモノニシテ外ノ色相ト内ノ心識ト二種具足セザレハ決シテ世ニ生存スルコト能ハザルナリ而シテ色身ハ外ニ顯現シテ一期相續ノ事相ナルガ故ニ之ヲ俗ト稱シ父子君臣夫婦兄弟朋友ノ五倫之レニ屬ス人道ノ法ハ能ク色身上ヲ教育スルモノニシテ凡ソ人集リテ國家ヲナストキハ之ヲ統轄シ且ツ其善惡ヲ賞罰スル政法ナクンハ有ルベカラズ、其心識ハ内ニ潛藏シテ隨行所生ノ無性ナルガ故ニ之ヲ眞ト稱ス而此心識ハ耳ヲ傾ケ口ヲ開キ手ヲ動シ足ヲ運ブ皆此心識ノ支麾スル所ニシテ身心假合シ身体ニ我他彼此ノ別ヲ生シ妄リニ自ヲ益増セント欲シ其極遂ニ他ヲ損害シ延テ衆惡ヲ造ルニ至ル此衆惡遂ニ第八阿賴耶識ノ負債ト

ナリ三世常恒ニ相續シテ三界六道ニ流轉シテ端ナク現世ノ一期盡クルモ心識猶存シテ現在ノ善惡業ニ隨テ其未來ノ趣ク所苦樂ノ地ヲ異ニス是故ニ善惡因果ノ理ヲ説キ勸善懲惡ノ道ヲ教ヘテユノ世ニアリテハ人道ヲ誤ラス來世ニアリテ出離ヲ謬ラサラシムル佛教亦ナクンハアルベカラズ、是レ政教共ニ竝立セザルベカラザル所以ニシテ若シ其一チカグトギハ身心具足ノ人類社會ヲシテ蓋シ不足ノ念ナク安全平治セシムル能ハザルナリ而シテ佛ノ衆生ト云ヒ世王ノ万民ト云フ其体一物ニシテ別物アルニアラス色身上ノ善惡褒貶及教育ハ主トシテ世王ノ管轄スル所、善惡因果ヲ説キ心魂ノ迷悟浮沉ヲ明カニシテ人ヲシテ衆惡ヲハナレ衆善ヲ積ミ苦處ヲハナレテ樂域ニ至ラシムルハ主トシテ法王ノ管轄スル所、此ノ如ク二王ソノ管轄ヲ異ニスト雖互ニ相扶ケテ以テ始メテ全フスルコトヲ得ルナリ若シ政刑ノ世法ヲ以テ現在ノ人道ヲ治メスンハ出世ノ法モ施スニ由ラシ若シ又出世ノ

因果ヲ説テ人ヲシテ三世ヲ了知セシメスンハ世法ノ制モ亦蓋シ堅持セシメ難カルベシ是レ政教二者共ニ其一ヲカグベカラザル所以ナリ

第二佛教ト造化教ノ關係

第五十節 方今世ニ宗教ト唱スルモノニシテ足ラス上己ニ記スルガ如ク歐米各國ニ猶太^{ユダヤ} 耶穌 天主 希臘^{ギリヤ} 路德^{ルテ} プロテスタン 諸教アリ 亞細亞諸邦ニ佛教婆羅門教 プラナ ヴエダ 及モハメツト 教アリ是レ皆宗教トシテ世ニ公唱スルモノナリ此諸教宗ソノ旨義ニ至リテハ各自頗ル繁雜ニシテ極メテ一順ナラスト雖ソノ原理基本ヲ以テ之ヲ較スルニ大判シテ因縁教ト造化教ノ二大教ニ外ナラザルナリ佛教ハ即チ因果教ニシテソノ餘ノ諸教ハエホバ即チ造物主ヲ立スル所ノ造化教ナリ今余ハ此ノ如ク因縁造化ノ二ヲ以テ諸教ヲ大判シソノ關係得失ヲ判セント欲ス抑々余ハ自ラ佛教徒ナルヲ以テ佛教獨リ眞ニシテ余教ミナ偽ナリ妄ナリト云フニアラスト雖局外中立ニ在リテ哲理

上ヨリ之ヲ考フルモ實際上ヨリ之ヲ檢スルモ何人トイヘドモ其確然勤スベカラザル者ハ原因結果ノ數理ニシテ其妄ノ最モ見易キモノハ天神特造ノ説ナリ乞フ徐々ソノ所以ヲ述ン看ヨ孰レカ因果ノ理ニ由ラスシテ其處ニ至ルモノアリヤ日夜螢雪ノ苦學ヲ窓ノ内ニ勵ムモノハ必ラス早晚ソノ名ヲ社會ニ博スベシ星ヲ頂キ朝夕家ヲ出入シ其事業ニ怠ラザルモノハ又ソノ富強ヲ致スニアラスヤ上百官群臣モユノ理ニ由リテソノ地ニ至リ下衣食ヲ路傍ニ乞フテ常ニ飢凍困苦ニ際ナキモノモ此理ニ由ル降リテ人權ヲ剝脱サレ足ニ鎖リテ繫レ身ニ罪服ヲ纏ヒ朝夕木杖ノ下ニ驅役セラル、入監者モ亦此理ニ由ラザルハナキナリ嗚呼大ナルカナ因果ノ理法一点ノ雲モ偶然ニ去ルナク方寸ノ薄氷モ縁ナクシテ消解スル能ハス嗚呼大ナルカナ因果ノ理法吾人今現在ニ見ルトコロノ事物ノミ獨リ此理ニ由ルニアラス博ク之ヲ推シ遠ク之ヲ究ムルニ三世ニ亘リ十方ニミケ一トシテ此理ニ由ラザルハ

アラザルナリ嗚呼大ナルカナ因果ノ理法上ハ佛界ヨリ下ハ地獄ノ極底ニ至ルマデ此理ヲ外ニシテ其所ニ至ルヲ能ハザルナリ吾人今ユノ万物ノ長タル人身ヲ感得スルモ亦ユノ理則ニ由リテ然ルナリ獨リ吾人々類ノミニアラス無足多足地行空飛ノ畜類モ肉眼以テ見ルベカラザル餓鬼ヤ地獄ノ境界ニ入ルモ菩薩佛果ノ覺道ニ至ルモ皆ユノ理ニ由ルナリ此理現レテ自然天下ノ法則トナルソノ休ヤ滅セスソノ理ヤ變セス仍テ以テ天地位シ万物育ハル嗚呼大ナルカナ因果ノ理法是レ天下ノ原則ナリ是レ自然ノ法則ナリ是レ天下ノ一大正道ナリユノ因果ノ原則遠ク三世ニ亘リテ信スヘク近ク實際ニ照シテ疑フベカラス此理小ニシテハ生住已滅大ニシテハ常住壞空ニ遍ス吾人今眼前ニ實見スル森羅万象ノ由リテ起ルソノ本ヲ究メテソノ極点ニ至ルトキハ唯此一理アルノミ此一理開發シテ万境トナリ万境壞滅シテ復一理ニ合ス以テ無量ノ常住壞空アリ此理ヲ究メテソノ言フベカラザルニ至

レハ之ヲ眞如ト云ヒ法性ト云フソノ實證詮談旨ニシテ言象ヲ筌筮ニ絶シタル妙境界ナリ此妙境界ヨリ方便ノ身形ヲ示現スルモノ之ヲ法藏ト云ヒ志願成就シテ阿彌陀ト号ス六要主云ク此名号即爲眞如法性正體之義宛然ト是レ之ヲ云フナリ此ノ如ク晝夜一劫之ヲ説クモソノ理ヲ尽スヲ能ハス余今略シテソノ一端ヲ演ブルノミ然ルニ彼耶穌教者ノ説ク所ヲ見ルニ獨一主宰ノ天主ナルアリテ空無一物ヨリ世界ヲ造シ人類ヲ造リ心魂ヲ賦與シ及万般ノ事物ヲ創造セリト云フソノ説余ヲ以テ之ヲ考フレハ我佛教因緣界中ノ一部ナラザルハナシ唯ソノ上帝世界ヲ造スルヲ知リテ此ノ如キヲ古來無究ニシテ將來モ亦無究ナルヲ知ラス哲理上上帝ヲ究メテ實道ノ極点ニ進化シソノ固體ノ上帝ヲシテ普遍ノ眞理ニ變ゼシムル能ハザルノミ余信スソノ天帝ヲ究メテ止ムナキトキハ佛教ノ謂ユル眞如ナルモノニ至ラン果シテ然ルトキハ天帝ハ天帝ニアラスシテ眞如ナリ耶穌教ハ耶穌教ニアラス

シテ佛教ナリ是レ余ノ耶穌教ハ我カ佛教ノ一部分ニシテ因果界中ノ
一隅ニ居セリト云フ所以ナリ然ルニ彼レ自ラ之ヲ知ラズ却テ佛教ヲ
以テ非ナリトシ之ヲ排セントス余實ニ捧腹絶倒ニ堪ヘザルナリ然レ
共余妄リニ彼レガ妄ヲ世ニ明言センコト欲セス否妄リニ他教ノ短所
ヲ取リテ己ノ長所ニ比シ以テ之ヲ排斥スルガ如キ劣手段ハ識者ノ万
取ラザル所ナリ余ハ唯真正ノ道義ヲ世ニ擴張スルヲ以テ主トス然ル
トキハ己ニ邪道ニ沉溺シ長夜ニ迷夢セシ盲徒モオノヅカラ自悟スル
所アラシク彼教徒宜ク自省セヨ未タ宗教界内ニ入ラザルモノニシテ將
ニ宗門範圍ノ内ニ入リソノ未來ノ方向ヲ定ント欲スルモノモ亦ユノ
書ヲ讀テ多少覺悟スル所アルナラン余深ク信シテ疑ハザルナリ

明治二十二年 三月廿五日 版成
全 年 六月十五日 納本并御届

價定 拾八錢

山口縣周防國佐波郡三田尻町第三百八番地寄留

篇 纂 人 小 林 皆 眞

山口縣周防國佐波郡三田尻町第四百十六番地

出版 人 西 村 寅 之 助

全都濃郡徳山村八百廿番屋敷

印刷 人 河 野 泉 助

公 告

小林皆眞輯

● 教學者必携

全二卷

減價四拾八錢
贈稅拾二錢

右ハ全世界万般ノ事物ノユルトユロナク網羅シタル世間有益ノ書
ニシテ奏任氏家楨介別格本山主松尾泰範本派教師香川默識諸師ノ
題序詩アリ

小林皆眞著

● 物心本原論

全

價拾八錢
稅六錢

物トハ有形ノ事物即森羅ノ諸象ヲ云ヒ心トハ無形ノ零体即吾人ノ
心魂ヲ云フユノ物心二者ノ由リテ起ル本原ヲ東西兩洋ノ諸教諸學
ニ實照シ其眞源ヲ開示セシモノナリ

小林皆眞

● 天神有無論

小林皆眞

● 僧頭金針

周防佐波郡三田尻町

出版所 出版事務所

全郡全町

以文齋

以文錄

全錄全圖

全錄全圖

全錄全圖

EX 305

9

1

013595-000-4

特29-884

宗教一斑

小林 皆真(澹泊) / 著

M22

ABA-0064



特
8